

# 7号機燃料装荷認めず

## 柏崎刈羽原発 規制委手続きを保留

原子力規制委員会は17日、東京電力柏崎刈羽原発で外部からの侵入探知などの設備が故障しているながら十分な代替措置が取られていなかった問題を受け、年内の稼働を計画していた同原発7号機の燃料装荷に必要な手続きを当分の間保留することを決めました。

会合では、東電からの許認可や検査の申請の取り扱いを議論。手続きの保留方針について、委員5人の全会一致で了承。規制委によれば、柏崎刈羽原発では侵入探知設備が故障したにもかかわらず実効性ある代替措置を講じていなかったため、2020年3月以降、問題について、「組織的な調査が課せられます。同日、東京電力柏崎刈羽原発で外部からの侵入探知など不正な侵入を探知できない可能性がある状態でした。また、18年1月～20年3月の間にも侵入探知設備の故障が複数ありましたが、対応に長時間を要していたとされています。

規制委は16日、これらの問題について、「組織的な調査が課せられます。同日、東京電力柏崎刈羽原発で外部からの侵入探知など不正な侵入を探知できない可能性がある状態でした。また、18年1月～20年3月の間にも侵入探知設備の故障が複数ありましたが、対応に長時間を要していたとされています。

「核物質防護上、重大な事態になり得る状況にある」として、事態の重要性が速く進んだとしても、1年以上かかるのではないかと発言しています。

深刻度ともに4段階で最も悪の評価を下しました。評価が確定すれば、東電には第三者による評価・分析や、現在では全て復旧している」といいます。↓関連⑥面

## 原発運転資格あるのか

### 参院予算委 井上氏が東電批判

日本共産党の井上哲士議員は17日の参院予算委員会、東京電力柏崎刈羽原発でテロ目的などの不正な侵入を防ぐ装置が昨年3月以来、故障し続けていた問題を取り上げ、東電に対し「原発を運転する資格そのものが問われている」と厳しく批判しました。

井上氏は、住民から大きな怒りと不安の声が上がっているとして、東電の小早川智明社長に「今回の問題はなぜ発生したと考えているのか」と追及。小早川社長は、故障した装置の代替措置をとっており、「十分だとしていたこと自体が大きな問題だった」と述べつつ、現場任せにしないと答弁しました。井上氏は「現場任せが問題だったのか」と批判し、原子力規制委員会が組織的問題を指摘している」と述べました。

井上氏は、規制委が同原発の再稼働に向けた審査を動かす「適格性」を認め、保安規定の基本姿勢を了承したことに言及。「その前にID不正や今回の問題が起きていた。適格性を認めた判断の前提が崩れているのではないかとただしました。

規制委の更田豊志委員長は「核セキュリティ文化がずたずたにもかかわらず、安全文化がしっかりとれているというのは考えにくい」と述べ、保安規定違反の有無についても今後確認していく必要があると答弁。井上氏は「しっかりと再検証してもらいたい」と迫りました。



質問する井上哲士議員  
17日、参院予算委

梶山弘志経済産業相が「このままでは再稼働できる段階にない」と述べたのに対し、井上氏は「原発を運転する会社としての資格そのものが問われている」と強調しました。

# 「東電に資格・能力ない」

新潟県の東京電力柏崎刈羽原発における核物質防護設備の機能の一部喪失事案について、原子力とをを受け、地元からは、規制委員会が重要度・深刻度とも最も深刻な状態であると暫定評価したことを受けて、地元からは、

## 東京電力柏崎刈羽原発での核セキュリティ問題の経緯

|            |                                       |
|------------|---------------------------------------|
| 2020年9月20日 | 柏崎刈羽原発の中央制御室で他人のIDカード使用で不正入室が発生       |
| 21日        | 東電社内の核セキュリティ部門が把握、原子力規制庁の核セキュリティ部門に報告 |
| 23日        | 原子力規制委員会が東電の保安規定変更案を了承、「適格性」を認める      |
| 2021年1月19日 | 規制庁が不正入室を規制委の更田豊志委員長に報告               |
| 2月19日      | 東電、侵入者検知設備の損傷・故障を公表                   |
| 23日        | 東電が不正入室問題についてコメント                     |
| 26日        | 規制庁が、委員全員が集まった臨時会議で不正入室問題を報告          |
| 3月10日      | 東電、不正入室問題で再発防止策を規制委に提出                |
| 16日        | 規制委、侵入者検知設備が複数箇所でも長期間故障していたと発表        |

## 柏崎刈羽原発 地元の声

東電に「原発を動かす適格性」があるのか厳しい声が続いています。原発の安全性を検証する県技術委員の立石雅昭・新潟大学名誉教授は、「今回の問題は県民に新たに大きな衝撃を与えた」と述べ、「1月以降に判明したID不正使用や安全対策工事未了など数々の不祥事に対し、以前のデータねつ造、隠蔽（いんぺい）と相まって、『東電には原発に携わる資格も能力も無い』と指摘してきた。この指摘の正しさが明らかになった。原子力規制委員会は柏崎刈羽原発が新規制基準に適合すると判断したが、原発を運転する資格や能力の判定対象に、核防護上の設備や取り扱いの状況が入っていない仕組み自体も問われている。新潟県は県民の安全安心を守るために、県技術委員会の開催と柏崎刈羽原発への立ち入り調査をするべきです」と話しました。

原発をなくす新潟県連絡会の小市信事務局長は、「社員を管理する能力を疑う事態だ」と批判。日本共産党の持田繁義柏崎市長は、「東電が企業体質を改善する力を持っていない深刻な事態。規制当局は機能していないのではないか。新潟県は技術委員会の縮小方針を改め、立石委員らの再任と拡充で実効性ある検証の実施をするべきです」と指摘しました。

(新潟県・伊藤誠)